

環境省 第8回びんリユースの在り方検討会

ロードマップ(案)を報告するにあたって(資料)

びんリユース推進全国協議会

なぜびんリユースが進まないのか !!

1) リユースが進まない理由

容器リユースを進めるための、確立した統一の「制度」がないことです。あるのは、これまでの慣習により生き残ったびんリユースの仕組みであり、今の容器包装リサイクル法では、3Rの「優先順位」があるだけです。消費者や小売店、その他のスーパーなどでの販売店ではどの容器がリユース容器なのか分からないため、協力しようにもしようがない状況にある。結局、リユースを進める制度や容器統一の規格・基準が不十分で、又、リユースのしくみが社会的認知を得るには至っていない為、多くの人の協力や進捗点検ができず、よりリユースし易いための改善も出来ていない状況にある。

2) では、容器リユースを進めるにはどのようにすればよいのか

容器リユース制度を確立し、社会的に認知されたしくみを作るしかない。全国統一のリユースの仕組みをつくり、市民、事業者、行政の協力による運用による、全国に「地域別協議会」を設立することがリユースを進めるために必要と考えます。

このように考えた時、容器リユースの中長期的ロードマップ(工程表)など具体行動計画が必要で、PDCAによるマネジメントと進捗管理が求められる。全国協議会としては、リユースの衰退の危機感に対し、「びんリユースロードマップ(案)」として作成し、これによる必要な容器規格制度や必要な法対応の施策・検討について具体的に取り組むことを考えている。

しかしこのロードマップ(案)は、容器メーカー、中身メーカー、販売者、消費者、国・自治体などの行政など関係主体の参加による合意形成がなければ絵に描いた餅になる。そのための「場」の設定が必要なる。

今回報告のロードマップ(案)は、その意味で全国協議会に参加する会員団体の想いであり、たたき台であり、今後本物の「びんリユースロードマップ」になるようにしなければなりません。場合によっては、「容器リユース促進法」のような「制度」が必要かもしれませんが。

最後に、今回の「ロードマップ案」をたたき台にし、もっともっとびんリユースが進むような論議ができる「検討会」になるようお願いしたい。

(文責) 小沢 一郎